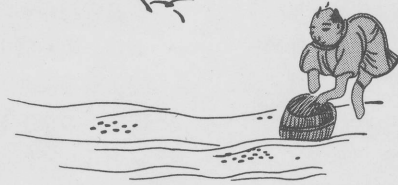


西宮市立郷土資料館ニュース



第2号 1988年1月1日発行

資料館ノート

常設展示室の展示替え

西宮市立郷土資料館では、昭和62年8月に「教科書その一世紀」と題する第2回特別展を開催した。その概要は『資料館ニュース』第1号に紹介した。特別展は収蔵教科書類の整理作業の進展に伴い、資料をご寄贈いただいた方々への報告という性格を強く打ち出し、若干の借用資料で補いつつ、教科書からみた近代教育の発達を基本テーマとした。20日間の会期中に2,748名の観覧者を得、神戸大学教授杉山明男氏の講演も盛況であった。特別展の開催は資料・情報の蓄積や集中的な整理を促し、今後の資料の収集方針・活用の方向を決定づける機会でもあった。

当館常設展示室に、教科書を中心とする展示がある。「15 大観楼」「16 寺子屋Ⅰ」「17 寺子屋Ⅱ」「19 教育の普及」である。今回、ここに展示している資料を、特別展とこれまでの整理作業を受けて、より適切なものに置き替え、返却期限の近づいた借入資料との入れ替えを行い、併せて、タイトル・パネルなどの一部変更を行うことにした。4コーナーはそれぞれ「15 庶民教育のはじまり」「16 国民教育のはじまり」「17 教育政策の転換」「19 近代教育制度の確立」とした。「15 庶民教育のはじまり」では、寺子屋で用いた教科書を中心としていわゆる往来物や

手習いの手本などに加え、『富貴塵劫記大成』・『庭訓往来修解大成』を展示する。パネルは寺子屋の就業年限ほかの絵グラフ・西宮市域所在の私塾と寺子屋一覧表・館蔵の寺子屋師匠の描いた寺子屋の様子 of 拡大写真である。

「16 国民教育のはじまり」では、学制の公布から明治10年代までの文部省や師範学校が指定した教科書を中心として、家庭用と思われる小形掛図・いわゆる『幼童家庭教育用錦絵』・『学制』などを展示する。壁面には、掛図を用いた授業風景・『塩浜小学開業指令書』・『下等小学卒業証書』を配する。「17 教育政策の転換」ではいわゆる明治検定期の教科書のほか、『明治孝節録』・『幼学綱要』・学校に下賜された『教育勅語』を併せて展示する。パネルでは、学校制度と就学児童数の変遷を表した。「18 近代化へのあゆみ」を挟んで、「19 近代教育制度の確立」には明治37年から昭和15年までの国定教科書を陳列し、壁面は、明治40年ごろの小学校の授業や登下校風景を写した写真パネルにとどめ、煩雑な説明を避けた。

以上の展示では、「なつかしき展示」になりやすい近代展示を避け、実物としての教科書から近代教育の変遷を考えることを主眼とした。

収蔵民具の整理

1. 民具収蔵の経過

西宮市立郷土資料館には、約2,000件の民具が登録されている。これらの大部分は、西宮市教育資料室において収集され、当館に引き継がれたものである。教育資料室では、昭和42年ごろから民具の収集を開始した。収集は西宮市域からの寄贈を中心としている。

西宮市内の小学校では、第3学年で『西宮のくらし』と題する副読本を用いた社会科の授業を行っている。これは、地域の歴史・地理・公民的分野を総合した教材である。教育資料室では民具収集の方針を、『西宮のくらし』をできるだけ実物資料で示し、これを西宮市内の小学生に観覧させることに求めた。

『西宮のくらし』の目次を拾うと、「一、わたしたちの西宮市と兵庫県、二、西宮市の人びとのしごととくらし、三、商店と市民のくらし、四、西宮市と香住町、五、西宮市のうつりかわり」とある。したがって、民具は昭和40～50年にかけて急速に失われつつあった農業関係資料が中心となった。また、日本海側と瀬戸内海側のくらしの違いを示すため、村岡民俗資料館の協力を得て、同町周辺の資料の収集も行った。こうして、収集された民具は教育資料室が毎年開催した、「教育資料展」、「兵庫県の歴史展」、「ふるさとの生活用具展」などに生かされ、その数も漸次増加した。また、教育委員会文化課においても昭和52年から民具の収集を開始し、市立浜甲子園小学校の空き教室をその保管場所としていた。

昭和60年、西宮市立郷土資料館の開館に伴って教育資料室は発展解消され、資料室収蔵資料と文化課収集資料は郷土資料館にそのまま移管された。移管後は奈良県立民俗博物館にその整理法を学び、これにしたがって資料のカード化を行った。その後も、まとまりのある資料の寄贈がいくつかあった。これら

新蔵資料の整理を行う一方、資料の再整理を兼ね、昭和62年8月より上井久義関西大学教授が整理作業の依頼を受け、関西大学民俗学研究会の学生が作業を開始した。今回の報告は上井教授指導の下、同研究会、行俊 勉・土屋信亮・東原直明・溝尾秀和の行った作業のなかから得られた知見の一部を、行俊が記したものである。

2. 紀年銘民具と名塩紙漉道具

収蔵民具の内訳は、登録2,060件のうち、大部分が西宮市内採集になるが、市外のものが325件ある。うち、兵庫県内が289件、県外が36件である。現在、未整理の資料をまだまだ残している状況ではあるが、収集・整理作業を進めるにつれ、成果も少しずつあがってきている。

民具の研究方法として、紀年銘を有する資料、いわゆる「紀年銘民具」に注目する方法があるが、本館所蔵資料にも、近世の紀年銘民具が何点かみられる。なかでも、「皆天明元丑秋八月吉祥旦 武庫郡下大市邑中村氏彦兵衛自作之」「万石簾中村氏彦兵衛作之皆天明元丑稔秋中吉日」の銘のある万石とおしは、最近、近藤雅樹氏が紹介（「天明元年銘を有する万石とおし」『近畿民具』11号、1987年11月）された通り、農具研究上重要な資料である。

西宮市の伝統産業の一括資料としては、塩瀬町名塩の紙漉の道具がある。これらは常設展示にも活用されている。紙漉の仕事をしている家は年年減少の傾向にあり、技術伝承や工具・原材料・製品の交易等について記録化してゆきたいと考えている。

3. 農耕絵朱塗椀について

農耕絵図は、諸本や屏風などにみられるものがあり、そこから当時の農作業の風景を知ることができる。本館所蔵資料の中には、そういう農耕風景を描いた朱塗椀（以下、「農

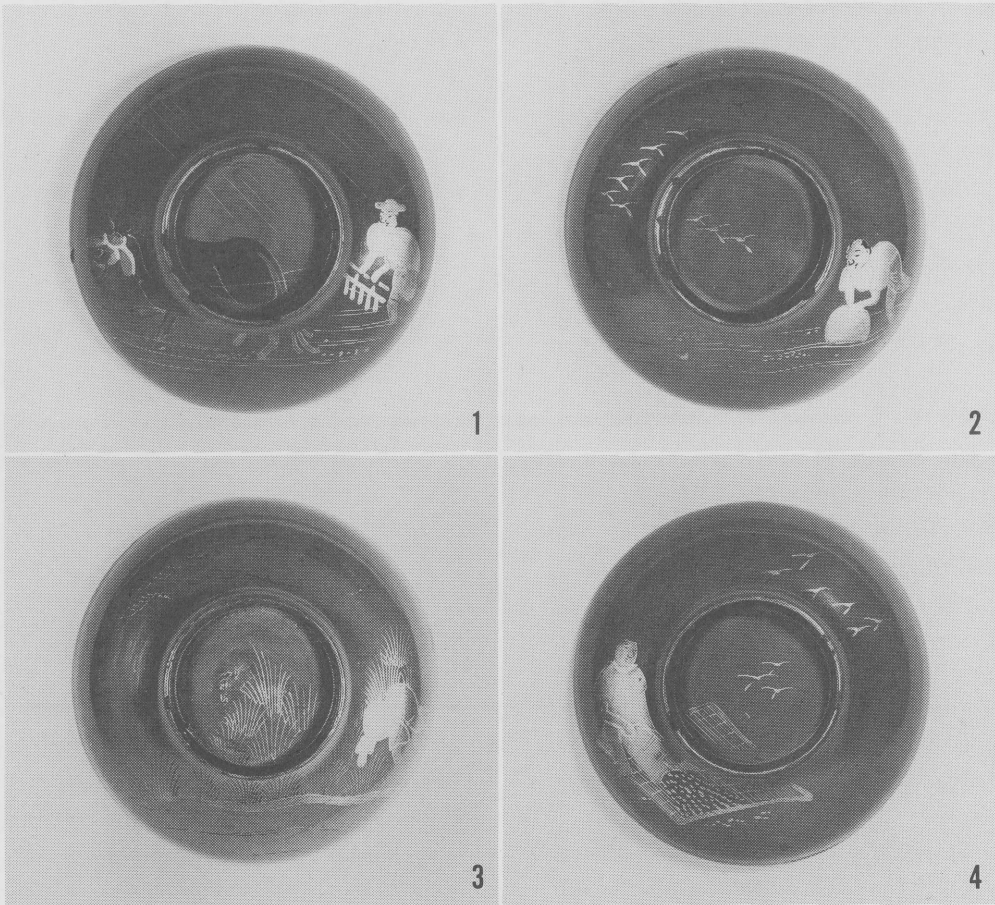
収蔵庫ノート

「農耕朱塗椀」がある（写真）。

農耕朱塗椀は蓋と身が揃っているものが3客、蓋のみのものが1客残っているが、収納する箱もなく、いわば、断片的な資料である。4客とも絵柄が違い、もとは5客なり10客なりで1組のものであったのかもしれない。大きさは口径（身）11.5cm、全高8.5cmで、朱塗り地の蓋に金泥で農作業のさまざまな様子が描かれている。4客とも絵柄が違い、①牛耕、②種漬け、③草取り、④収穫の様子がみえる。ただし、②、④については見た印象で述べたまでなので、正確には写真を参照していただきたい。いずれも一連の農作業の様子をひとつずつ描いたものであり、全部揃うと農耕絵図屏風の様に完結した姿が想像される。これらの絵は、美術工芸品としてはそれ

ほど精緻なものとは思えず、やや稚拙な印象を受ける。ただ、この絵を描いた椀が、いつ、どこで、誰の手によってつくられ、どういう時に用いられたのかは不明であり、他に類例があるのかもわからない。いずれにしても、この資料は断片的で揃って残っていなかったことが残念であるが、田畑で働く人や牛の飄飄とした表情が、和やかな雰囲気をもっており、美術工芸資料というよりも民具といった方が似つかわしいと思う。

民具は、他の分野の資料に比べ、使用者や製作者を直接、間接に知り、その使用年代や使用方法を細かく調べられる場合が多い。今後、収集・整理の過程で不明な点を聞き取りによって充実させていきたい。



農耕絵朱塗椀

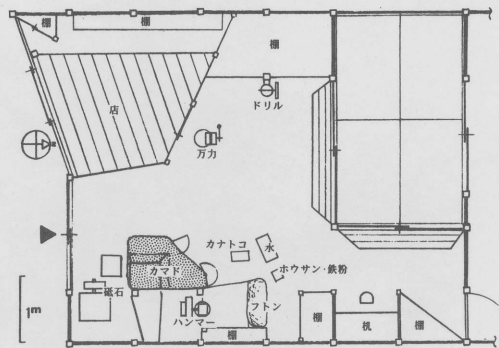
「鍛冶為」鍛冶道具の受贈

昭和62年8月、西宮市六湛寺町、塚本文子氏より、民具ご寄贈のお申し出があった。塚本氏方には製品を売るための店を兼ねる鍛冶作業場があり、奥には畳の間と帳場様の机とが通庭状の通路をはさむように配置され、さらに奥の私宅部分に通じている。

寄贈民具は、主として鍛冶道具で、現場は往時そのままの状態を保っているようであった。道具の主は寄贈者の亡夫定吉氏である。職人はフトンに腰掛け左側に機械ハンマー、右側に動力フィゴ付属の自作カマドを見る状態で作業する。フトンの右側にはカナトコ・焼き入れのための水を入れる蓋付き方形の壘・ホウサンと鉄粉の入った木箱がある。ここで使用する道具はおもに、職人の左側の壁面と後方の棚に置かれる。壁面にはカナハシが20本、棚にはタガネ・ツチが多数あった。鍛冶道具はドリル後方の棚、店の陳列台の下、畳の間の縁・床下にも鉄素材とともに置かれていた。道具は大部分自作で、タガネは形状のわずかに異なるものが多数あった。大型の機械には動力フィゴの連結する自作のカマド・動力ハンマー・動力砥石・万力・ドリル

があったが、前3者は採集を断念した。

定吉氏はその父為造氏から鍛冶を学んだといい、定吉氏を含めて3代目らしい。製品は農具が大部分であったが、土木工事用具・植木職人用道具なども作った。道具の製作とともに修理も重要な仕事であったが、鋏やツルハシの柄などは購入した。販路は北部を除く西宮市域・尼崎市であった。かつては、職人が3人いたという。寄贈資料に釜と櫃があるのはこのためである。毎年1月15日にはアカイゴハンを炊いてカマドマツリを行い、カマドにはヒノカミサンを祀った。



作業場平面略図

寄贈資料一覧

昭和62年：明治時代の教科書・ノート（中村弘）、名塩紙紙漉術・簀・叩き棒・叩き台・鎌・土臼・マグワ・カラスキ・カラサオ（川畑摂夫）、千歯こき・万石とおし・ガンゾメ・草取器・ニョチウガケ（北夙川小学校）、篠崎小竹七言長詩書幅（小畑秀雄）、カナハシ・

ツチ・ヤスリ・タガネ・セン・ハサミ・カナトコ・フィゴ・マンリキ・ハチノスその他「鍛冶為」鍛冶道具（塚本文子）、ガンゾウ・ヨキ（小野岩雄）

ご寄贈ありがとうございます。

（昭和62年12月現在、敬称略）

目次

資料館ノート

常設展示室の展示替え…………… 1

収蔵庫ノート

収蔵民具の整理…………… 2

「鍛冶為」鍛冶道具の受贈…………… 4

第1号の訂正：1頁左34行 15年→19年、2頁右17行

寄贈資料一覧…………… 4

表紙：農耕絵朱塗椀・種漬け図

西宮市立郷土資料館ニュース第2号

発行 1988年1月1日 西宮市立郷土資料館

〒662 西宮市川添町15番26号 TEL0798-33-1298

教練→教練、4頁右34行 玄野 強→玄野 強